

拠点

拠点3 嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦

1. 事業概況(運営方針・目標の実施状況)

1) 拠点全体

今年度も昨年度に続き新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年であった。特に1月にのびろ学園において利用者及び職員の多数が感染し、クラスターとなったことも大きな出来事であった。幸いにも罹患した利用者、職員においては軽症であり、他の事業所に感染が及ぶことがなかったことは、職員の努力によるものであると感じている。今現在も新型コロナウイルス感染症は流行しており、いつまたクラスターが発生するかもしれない状況ではあるが、感染予防を行いながら、今回の反省点等を生かし備えておくことを徹底したい。また、感染症の予防等に伴い、両学園共に帰宅を控える時期があったが、面会などでなるべく家庭とのきずなを絶やさないように努めた。その点ではオンラインを利用しての面会などを取り入れ、直接ふれあうことは出来なくとも、少しでも交流を図ることが出来るようになってきている。しかし利用者、ご家族にとって十分に交流を持っているとは言い難い状況ではあるが、感染症への対策としてはやむを得ないことであると考えている。

ここ数年にわたってのびろ学園の在籍者が少なく、定員を下回っていたが、今年度に関しては満床となり久しぶりに学園の活気も戻ってきた。特に年少児の利用が大きく増加した。この事はのびろ学園のニーズはまだ多くあり、存続していく可能性を多く残している事を実感することが出来た。満床になったことで運営的な面は安定したが、逆に新入園児が多数いたことで職員の対応が追いつかない部分も散見され、その点に関しては改善の必要性がある。ひかりの学園においては疾病に伴う退園者があった。また、それ以外にも疾患や怪我による自宅療養を余儀なくされるケースがあり、その事での利用率の低下及び減収となった。今後の大きな課題であると認識している。

職員の離職についてだが、今年度は増加している。特に直接支援に係る人材の占める割合が大きい。定着しやすい職場環境を作ることも必要ではあるが、外部研修など中堅職員にとって必要となる研修を実施できないことへの対応策を検討していきたい。引き続きキャリアパス制度を活用した人材育成を通して、業務遂行の困難さをやりがいに転化していきけるような取組をしていく必要がある。

施設整備として、敷地内に老朽化した建物が多くあり、今後10年程度の設備計画を立て、見直しをもって取り組むための流れを検討実施したい。

2) 袖ヶ浦のびろ学園

年度内の新入園児は、7名（措置1名、契約6名）であった。家庭や学校と連携を取り、学校生活への適応や家庭帰宅の調整を個別に行い、学園だけではない本人の社会生活を維持する中での入所施設支援体制をとった。今年度は新型コロナウイルス感染症により今までの入所や短期入所のスタイルに変化が見られ学校などの休校や社会全体の活動の自粛により自閉症児にとっては生活リズムの崩れや見通しの立たない生活を余儀なくされストレスを抱えた生活を送ることになり子どもたちの状態の悪化や在宅勤務などから児童虐待のケースが増加した。そのような状況に対応できるよう未就学児童の短期入所を積極的に受け入れた。施設の専門性を求める入所と養護性の欠如によるサービスの利用と新たなニーズに対応するため、児童相談所との連携を密に図りながら支援を行った。一方退所児は高等部卒業生6名であった。移行先は、障害者支援施設1名のみで、ここでも感染症による成人施設への移行支援が滞ることとなり当園で入所施設やグループホームへの移行待機による短期入所利用が5名となった。昨年度、障害者支援施設の長期短期入所に移行し

たものの本人の状態悪化により利用の継続ができなくなり学園の短期入所を利用して次の移行先への待機待ちのための長期短期入所利用2名となった。千葉県内、東京都内では行動障害を有する児童の受け入れが難しく、比較的受け入れが容易な地方を選択せざるを得ない状況が続いている。入所児については引き続き、千葉県からの入所数が東京都からの入所数を上回る傾向にあった。入所支援に求められるニーズは、行動障害に対する支援が高く、重度傾向と共に、生活環境に配慮が必要な個別的な対応と個室化が求められた。

また、今年度の短期入所は3度の緊急事態宣言の発令により利用のニーズはあったが利用の自粛をお願いすることになり低い利用率になった。

3) 袖ヶ浦ひかりの学園・グループホーム春のひかり

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対策に追われた一年間であった。昨年度は家庭への帰省を全て中止したが、今年度については感染者の減少が見られた時期に数回実施することが出来た。ワクチン接種や日々の感染予防としての消毒作業などは継続している。また、今までの面会とは形式を変え、オンラインでの面会を取り入れ、なるべく家族との交流を絶やさないように努めた。オンライン面会も初めのうちは利用者も親も戸惑う場面が多くみられたが、回数を重ねる毎に両者ともにスムーズに行うことが出来るようになってきている。この事は特に利用者やその家族が高齢化している当学園にとっては今後の家庭と交流の持ち方として有効であると感じている。

今年度は疾病による退園者が1名あった。利用者の家族は学園での生活を継続したい希望はあったのだが、24時間にわたる医療的介護が必要な状態であったため、学園での受け入れは難しいと判断せざるを得なかった。また、別の事例として入院治療が必要となり、治療を受けた後、自宅にて療養をしたケースがあったのだが、新型コロナウイルス感染症が蔓延している時期と重なり、以前のように家庭と学園を行き来出来る状況が失われていたため、結果自宅での療養が長引いてしまった。また、別に自宅に帰省中に転倒し骨折、その為自宅にて療養する事態となったケースもある。このように高齢化に伴う様々な疾患や怪我に対する対応は一律に決める事は出来ず、個々に相談しながら進めていくしかないと考えているが、ある程度の学園での受け入れ基準を設けておく必要があり、その基準を親や後見人に対して伝えておくことが必要であると感じた。また、このような事による減収をどう防ぐかは課題である。

感染症対策などによって生活への制限が多くなっているが、学園内の生活は今までと大きく変わることなく、作業等の活動は継続できている。行事などの余暇活動については今までのように出来なくなってきているが、制限のある中で工夫をし新しい取り組みが増えてきている事やグループ単位での行事を多く行う等、結果的に実施数が多くなっている。音楽療法についてもオンラインで各グループを繋いで行う取り組みも実施した。このような事については感染症への対策ではあるが、今後より高齢化していくひかりの学園にとっては行事の持ち方として好事例となった。

春のひかりにおいても同様にコロナ感染症への対応ということで、住人たちの生活や行動が大幅に制限されることが多かった。その為、自ら外出の機会を持ちにくい住人や、個別の買い物や帰省や親の入院先への面会などを積極的に行った。誕生日のお祝いや、クリスマスや節分など季節の行事を行い、楽しみが増えるよう、そして季節感を感じられるように努めた。また、週末の朝食の提供も始め、これにより、毎日の世話人の配置、毎日の朝食提供となった。家庭に代わる暖かさのある大事なひと時となるように努めている。夕方だけでなく、朝も世話人が入ることにより、世話人との関りの機会も増え、GH内の住人たちの雰囲気は穏やかになってきたように感じた。

4) 地域生活支援センターたのしみ

袖ヶ浦市指定による「特定相談支援事業」「障害児相談支援事業」及び、千葉県指定による「一般相談支援事業」の指定を受けて事業を行った。また、袖ヶ浦市から袖ヶ浦市社会福祉施設等連絡協議会が受託した市の障害者相談支援事業に相談員を派遣し、地域の障

害児（者）への支援を行った。えがお袖ヶ浦（袖ヶ浦市相談支援事業）が拡充され、2021年1月18日に基幹相談支援センターが開所した。基幹相談支援センターは、袖ヶ浦市がNPO法人ぽびあに委託し、そこから再委託をされる形で相談支援事業所えにしが受託し、参画した。

児童発達支援事業については、市の幼児相談や病院からの紹介、他市からの利用が増え、事業所の存在がさらに認識されるようになった。袖ヶ浦市や木更津市の保育所などの巡回訪問を積極的に行い、発達が気になる幼児への体応の仕方等アドバイスをを行った。また、就学前に適切なサポートが実施できるよう袖ヶ浦市の要請を受け年長児童を対象に言語聴覚士による言語の発達検査を行った。児童発達支援事業は緊急事態宣言が発令されても利用を受け入れていたことや利用児の増加に伴い、利用率が大幅に増えた

放課後等デイサービスは、槇の実特別支援学校・君津特別支援学校・市原特別支援学校・長浦小学校・昭和小学校・奈良輪小学校・蔵波小学校の児童が利用したが今年度は新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発令され学校の休校や利用の自粛が続き利用率が大幅に減少した。

5) 袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園

袖ヶ浦市からの受託による指定管理、二期目の2年目を終えた。利用者との関係性を深め、利用者自身が意欲をもって通所することが出来る場となるように努めてきたことが受け入れられ利用者が増加した。特に生活介護事業に於いては昨年度、定員を20名に変更したが、まだ満床ではないものの利用契約者は17名となり、平均して1日当たり14名から15名程度の利用があった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、特に身体に障害を抱えている利用者、家族にとってはこの感染症への抵抗感、恐怖感は強く、利用を自粛することも多くみられ、結果として利用数の大幅な増加には至っていない。就労継続支援B型事業においては、30年ほどの前から継続して通所している利用者があることで、全体的な高齢化は進行しており、そのことによる生活の変化を余儀なくされるケースが出てきた。特に今年度については家庭からグループホームに生活の場を変更するケースが多くあった。しかし、生活の場が変化しても、日中活動の部分が変わらないことで、利用者の状態が大きく変化せずに移行出来ていた。家庭という基盤も大切ではあるが、今回のケースのように家庭でなくとも、本人の日中活動での支援者や利用者との関係性を基盤にし、新しい生活を受け入れることが出来るということが改めて確認できた。

同様な家庭の事情から短期入所利用のニーズも増えてきており、袖ヶ浦ひかりの学園の利用へと繋げた。袖ヶ浦ひかりの学園と連携して支援が出来るという安心感で、更なる新規の利用希望が増え、現在では毎日3~4名程度の利用希望があるような状況である。希望者も控えており、今後はさらに短期入所の利用が拡大していく見込みである。

2. 年間行事等実施状況

※別紙1「年間行事等実施状況」参照

3. 職員体制

※別紙2「組織図」参照

4. 職員研修

1) 方針(再掲)

社会的な背景として福祉人材不足や人材の流動性が高まる中、当拠点でも新たに採用される職員が増え、勤続年数の短い職員の割合も増加傾向にあると思われる。

一方、実績のある法人として地域からの期待と信頼も厚く、質の高い支援の提供が求められており、これまで培ってきた知識・技術を維持、発展していくことが重要であると考えられる。

幅広い研修ニーズに応じて人材育成を行っていただけるよう、新しい職員向けの基礎的な研修、専門性を高める研修、スーパービジョン研修など、各階層別、目的別に合わせた研修の再構築が必要である。

今年度は、これまでの効果的と考える研修を実施するとともに、研修係を中心に研修の再構築にも力を入れて取り組んでいく。事

2) 事業所内研修

①受容的交流理論に基づく対人援助の知識や技術を高める

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、夏季療育合宿、冬季療育合宿は中止。
- ・法人職員全体研修(3/13)への参加

②新人職員の育成

- ・チューター制度…新人職員に対し、キャリアパス制度による育成担当者がチューターとして1年間付き、新人の育成に取り組んだ。
- ・新人職員向け研修…4月1日、昨年度の中途採用職員、新人職員、異動職員を対象に、事務説明、非常用電源・スプリンクラーの説明、マナー講習会、環境整備の説明等を行った。
- ・新人研修…5月31日、昨年度の中途採用職員、新人職員を対象に研修を実施した。内容は、嬉泉の仕事について、研修について、嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦を知る、嬉泉職員として大切な視点を考える、懇親。

③法人事業所間の交流研修への参加

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、県を跨いで職員移動は避けた方が良い為、今年度は行っていない。

④心のケア(抱っこ法)研修

新人職員を対象に、合計5回の実施計画(7/21、9/1、11/10、1/12、3/2)を立てたが、コロナウィルスの感染拡大防止の為、後半の2回は中止とし、年3回実施した。

⑤拠点内全体研修の実施

- ・全体研修会…これまで複数回に分けて行っていた研修を、新たな試みとして、9月20日に1日にまとめて研修を行った。対象は、拠点内全職員。内容は、ケース研究発表会、アセスメントを考える研修、人権擁護研修、消防設備に関する研修。ケース研究発表会は、阿部秀雄先生にスーパーバイザーをお願いして実施した。
- ・エピソード記述研究会…新型コロナウイルス感染予防の為、今年度の実施は見合わせた。
- ・プール講習会…7月17日、事故防止、救助法獲得の為の研修として、昨年度行った研修を撮影したものを教材(DVD視聴)にして研修を行った。新人、異動職員を対象として、12名参加した。

⑥各職種に必要な知識を高める

千葉県知的障害者福祉協会児童部会は、オンラインで意見交換や情報共有等を行った。障害者支援スタッフ部会については、新型コロナウイルス感染拡大防止で中止となった為、職員派遣は行っていない。

3) 外部研修

出張・研修名	主催	参加人数	日時	開催地
第43回てんかん基礎講座	生活サポート千葉	1名	8月20日21日	ベルサール汐留
強度行動障害支援者養成研修(基礎)	千葉県知的障害者福祉協会	1名	9月15日 10月1日	千葉文化センター ふる里学舎蔵波

強度行動障害支援者養成研修（基礎）	千葉県知的障害者福祉協会	2名	10月20日 11月4日	千葉教育会館 ふる里学舎蔵波
千葉県相談支援従事者初任者研修	千葉県健康福祉部	1名	8月27日	リモート
令和2年度衛生管理講習会	袖ヶ浦市食品衛生協会	1名	11月5日	袖ヶ浦市民会館大ホール
障害者支援施設部会・地域支援部会合同研修会 施設長会議・研修会	千葉県知的障害者福祉協会	1名	12月3日	千葉市文化センター
高次脳機能障害リハビリテーション講習会	千葉県身体障害者福祉事業団	1名	1月22日～ 1月28日	WEB研修
障害者虐待防止・権利擁護研修	千葉県健康福祉部	1名	1月22日	WEB研修
令和2年度サービス管理責任者等更新研修	千葉県健康福祉部	1名	2月25日・他	千葉県教育会館

5. 実習生等の受入状況

① 実習生の受入(総数：一名)

名	称	
越谷保育専門学校		辞退
淑徳大学短期大学部		辞退
大原学園		辞退
東京福祉大学		辞退
東京リゾート&スポーツ専門学校		辞退
東京都市大学		断り
聖徳大学		断り
千葉明德短期大学		断り
YMCA		断り
白梅学園大学		断り
東洋大学		断り
大妻女子大学		断り
十文字学園女子大学		断り
立正大学		断り
横浜こども専門学校		断り
東京家政大学		断り
目白大学		断り
日本児童教育専門学校		断り
武蔵野大学		断り
清和大学短期大学部		断り
千葉経済短期大学		断り

※2020年度はコロナウイルス感染症の影響で、緊急事態宣言中に実習を予定していた学校は学校側から辞退の連絡がり、それ以降の学校については協議の結果お断りをさせていただいたため、実習生の受け入れはしていない。

② 知的障害者関係施設及び学校からの研修生(総数：1名)

名	称	人数(人)
しいの木特別支援学校		1

③ 見学者の受入(総数：22名)

名	称	人数
入所希望者		13
槇の実特別支援学校		1
てとて相談室		1
印西市役所		2

ピクシーフォレスト	2
きずな利用希望者	1
青葉会	2

3) 福利厚生

①定期健康診断(年2回)

対 象：全職員(深夜勤に当たっていない者は年1回)

実 施：1回目 令和2年9月25日

2回目 令和3年2月3日(夜勤対象直接支援職員)

実施人数：1回目52名

2回目51名

場 所：学園内(ちば県民保健予防財団検診車)

検査項目：問診、診察、視力、聴力、血圧測定、胸部測定、ウロビリノーゲン測定、尿潜血測定、尿糖測定、尿蛋白測定、心電図、便潜血測定、肝機能測定、腎機能測定、脂質測定、炎症測定、貧血測定、糖尿病測定

備 考：生活習慣病予防検診の対象者は、1回をそれに含める。

②生活習慣病予防検診(年1回)

対 象：35歳以上の職員

実 施：令和2年9月3日、4日、8日

実施人数：67名

場 所：学園内(ジェイコー千葉病院)

検査項目：問診、診察、視力、聴力、血圧測定、心電図、検便、検尿、血液検査〔貧血・生化学検査〕脂質、肝機能、胃部レントゲン、胸部レントゲン、身体測定(腹囲、BMI含む)、乳癌・子宮癌検査(希望者のみ)

備 考：日帰り人間ドックの対象者は、それに含める。

7. その他

施設整備

- ・袖ヶ浦ひかりの学園 エアコン設備設置工事(厨房)
総費用 2,900千円 (全て自己負担金)
- ・袖ヶ浦ひかりの学園 中庭人工芝設置工事
総費用 1,450千円 (全て自己負担金)

1. 10カ年のアクションプラン※網掛けは一部改訂および新規項目

- 1) 自閉症スペクトラムの多様なニーズへの対応
 - ①「はやて棟」の用途変更(ひかりの→のびろ) ※実施済み
 - ②のびろ大規模修繕 ※実施済み
 - ③のびろ支援員の研修(高機能、知的に軽度な発達障害への療育) ※継続中

- 2) 入所者の高齢化への対応
 - ④ひかりの本体(そだて)改修、増築 ※実施済み
 - ⑤ひかりの利用者グループ再編 ※実施済み
 - ⑥ひかりの支援員の研修(介護技術・メンタル・SV体制) ※継続中

- 3) 「切れ目のない」地域支援サービスの拡充
 - ⑦「児童発達支援センター」の整備(相談支援の併設) ※実施済み
 - ⑧のびろ利用定員の変更(50名→40名+短期併設10名) ※実施済み
 - ⑨ひかりの「地域支援棟」の整備 ※実施済み
 - ⑩グループホームの移設及び増設 ※今年度補助金申請したが、受託されず、継続中。
 - ⑪袖ヶ浦市福祉作業所の受託 ※実施済み
 - ⑫たのしみ中高生の放課後デイ実施 ※実施済み
 - ⑬袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理更新 ※実施済み
 - ⑭児童発達支援センターの機能拡充 ※実施済み
 - ⑮地域生活支援センターたのしみの再編成 ※実施済み
 - ⑯地域生活支援拠点の整備
 - ⑰ひかりの学園短期入所の定員拡大 ※実施済み
 - ⑱のびろ学園短期入所棟の整備

2. 自閉症スペクトラムの多様なニーズへの対応

- 1) ~~「はやて棟」の用途変更(ひかりの→のびろ) ※実施済み~~

- 2) ~~のびろ大規模修繕 ※実施済み~~

- 3) のびろ支援員の研修(高機能、知的に軽度な発達障害への療育) ※継続中
児童福祉法改正前は、第2種自閉症児施設として、重度の自閉症児(主に強度の行動障害を示す児童)を対象に支援してきた為、近年社会的なニーズとしても高まりつつある、知的に軽度な発達障害児に対しての支援に苦慮している現状がある。また、本人の問題のみならず、家庭環境(成育歴)や保護者自身も知的・精神障害を抱えているケースもみられ、トータル的な支援の必要性に迫られている。
まずは、法人内の他事業所との交流研修や実習を通して、スーパービジョンを受ける中で支援技術の向上につなげる。また、外部の研修などにも積極的に参加をすすめ、幅広い視点を養っていききたい。

3. 入所者の高齢化への対応

- 4) ~~ひかりの本体（そだて）改修、増築~~ ※平成30年度実施→※実施済み
- 5) ~~ひかりの利用者グループ再編~~ ※実施済み
- 6) ひかりの支援員の研修（介護技術・メンタル・SV体制） ※継続中
高齢化に向けては、介護技術の研修や資格取得などはもちろんのこと、他の高齢施設職員の意見を聞き、研修や施設整備に繋げていく。
保護者や利用者自身が亡くなったり、それに向けて見守っていったりなどの、ひかりの職員が未だ経験していない事態に対する備えとしての研修や、そのストレスに対するメンタル面への研修なども取り入れていく。
日々の業務の中で、療育ルームなどを使い、こぐま学園のようなSVを受けるなどの研修も行っていく。

4. 「切れ目のない」地域支援サービスの拡充

- 7) ~~児童発達支援センターの整備（相談支援の併設）~~ ※実施済み
- 8) ~~のびろ利用定員の変更（現在50名→40名＋短期併設10名）~~ ※実施済み
- 9) ~~ひかりの「地域支援棟」の整備~~ ※平成30年度実施→※実施済み
- 10) グループホームの移設及び増設
グループホームは、老朽化していることもあり、新たな建物の建設ないし取得（賃貸を含む）する。また今後、ひかりの学園の日中利用者及びうぐいす園利用者のニーズに合わせて、日中支援サービス型を含む新たなグループホームの設置も視野に入れていく。
- 11) ~~袖ヶ浦市福祉作業所の受託~~ ※実施済み
- 12) ~~たのしみ中高生の放課後デイ実施~~ ※実施済み
- 13) ~~袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理更新~~ ※実施済み
- 14) ~~児童発達支援センターの機能拡充~~ ※実施済み
- 15) ~~地域生活支援センターたのしみの再編成~~ ※実施済み
- 16) 地域生活支援拠点の整備
「地域生活支援センターたのしみ」内の「地域連携室」を核に、地域生活支援拠点事業として、国の求める次の5つの機能について、地域の実情に応じた整備を行う。
 - ① 相談
 - ② 緊急時の受け入れ・対応
 - ③ 体験の機会・場
 - ④ 専門的人材の確保・養成
 - ⑤ 地域の体制づくり

17) ひかりの学園短期入所の定員拡充 ※実施済み

18) のびろ学園短期入所棟の整備

ひかりの学園短期入所枠の拡大に伴い、のびろ学園短期入所利用者の属性を原則として児童に絞っていく。それによって、知的に軽度な発達障害児等を含めた多様な短期入所ニーズへ柔軟に対応すべく、小舎の専用棟を整備する。

[年次行動計画一覧]

年次	行 動 計 画	備考
平成25年度	● 「はやて棟」の用途変更	
平成26年度	● のびろ大規模修繕 ③ のびろ支援員の研修 ⑥ ひかりの支援員の研修	←単年度ではなく継続 ←単年度ではなく継続
平成27年度	⑦ 「児童発達支援センター」の整備 ⑪ 袖ヶ浦市福祉作業所の受託	※ひかりの30周年事業
平成28年度		
平成29年度	⑧ のびろ利用定員の変更 ⑫ たのしみ中高生の放課後デイ実施	※のびろ生活介護廃止 ※法人50周年事業
平成30年度	● ひかりの本体（そだて）改修、増築 ④ ひかりの「地域支援棟」の整備	※のびろ40周年事業 →保留
平成31年度	● ひかりの利用者グループ再編 ⑦ ひかりの学園短期入所の定員拡充 ⑮ 地域生活支援センターたのしみの再編成	
平成32年度	⑬ 袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理更新 ⑯ 地域生活支援拠点の整備	
平成33年度	⑩ グループホームの移設または増設	※継続中
平成34年度	⑭ 児童発達支援センターの機能拡充	※たのしみ20周年事業
平成35年度	⑱ のびろ学園短期入所棟の整備	

別紙1 (拠点用事業報告関係)

2021年度 年間行事等実施状況

項目 月	行 事		職員研修		職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		そ の 他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月	2	ひかりの父母会	1 20	新人研修 研修係打合せ	8 16	環境整備打合せ 厨房会議	8 29	災害対策委員会 のびろ避難訓練	8 14 21 23	苦情解決委員会 人権擁護委員会 労働衛生委員会 苦情解決委員会		
5月			23 18	新人研修 研修係打合せ	11 13 18 19 21	運営会 環境整備打合せ 運営会運営会 医務打合せ 厨房会議	27	のびろ避難訓練	10 12	労働衛生委員会 人権擁護委員会	13	サービス向上委員会 事故防止委員会
6月			11 15	全体会 研修係打合せ	10 11 23	環境整備打合せ 厨房会議 医務打合せ	10 24	災害対策委員会 のびろ避難訓練 たのしみ避難訓練	9 28	人権擁護委員会 労働衛生委員会 たのしみ健康診断	3 29	高齢化対策会議 キャリアパス委員会
7月	23	夏まつり	6 10 20 23	研修係打合せ 新人研修 研修係打合せ プール講習会	6 8 16 20 28	運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 医務打合せ	22	のびろ避難訓練	14 15 26	人権擁護委員会 苦情解決委員会 労働衛生委員会	1 8	高齢化対策委員会 事故防止委員会 サービス向上委員会
8月	28	たのしみ夕涼み会	3 17 31	研修係打合せ 研修係打合せ 研修係打合せ	6 10 12 17 24 26	厨房会議 運営会 環境整備打合せ 運営会 運営会 医務打合せ	6 12	総合避難訓練 災害対策委員会	16 24 26	労働衛生委員会 人権擁護委員会 労働衛生委員会	5 6	高齢化対策委員会 キャリアパス委員会
9月			12 21 28	全体研修 研修係打合せ 研修係打合せ	3 9 21 31	厨房会議 運営会 環境整備打合せ 運営会 運営会	23 15	のびろ避難訓練 災害対策委員会	8 13	人権擁護委員会 労働衛生委員会	9	事故防止委員会 サービス向上委員会
10月	18 22 25	ひかりの面会 うぐいす園運動会 ひかりの面会	19	研修係打合せ	5 14 15 19 26	運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 運営会	5 14 28 28	ひかりの避難訓練 災害対策打合せ のびろ避難訓練 災害対策委員会	13 14 19	人権擁護委員会 苦情解決委員会 労働衛生委員会 生活習慣病予防健診 (14、21、22)	7	高齢化対策委員会

	行事		職員研修		職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		その他	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
11月	8 12	ひかりの父母会 きずな父母会	16	研修係打合せ	2 9 11 12 16 17 19 23 30	運営会 運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 医務打合せ 厨房会議 運営会 運営会	25	のびろ避難訓練	10 11	人権擁護委員会 労働衛生委員会	4 10 11 18	高齢化対策委員会 キャリアパス委員会 サービス向上委員会 事故防止委員会
12月	10 24 28	ヒツジ遠足 クリスマス会 GH忘年会	21	研修係打合せ	7 9 14 17 21	運営会 環境整備打合せ 運営会 厨房会議 運営会 医務打合せ	9 16	災害対策委員会 のびろ避難訓練	8 10 27	人権擁護委員会 苦情解決委員会 労働衛生委員会	3	高齢化対策委員会
1月	5 20	餅つき大会 ひかりの学園新年会	18	研修係打合せ	11 13 14 18 25	運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 運営会	21	ヒツジ避難訓練	12 28	人権擁護委員会 人権擁護委員会	13	事故防止委員会
2月			15	研修係打合せ	1 10 8 15 22	運営会 環境整備打合せ 運営会 運営会 運営会 厨房会議	10 22	災害対策委員会 総合避難訓練	21 23	労働衛生委員会 人権擁護委員会		
3月	19	ヒツジ巣立ちを祝う会	1 15 19 27 28	研修係打合せ 研修係打合せ 新人研修 全体研修 新年度打合せ 新年度打合せ	15	運営会	23 24	たのしみ避難訓練 のびろ避難訓練	16 24 17	人権擁護委員会 労働衛生委員会 夜勤者対象健康診断	3 10	高齢化対策委員会 サービス向上委員会 事故防止委員会

事業拠点組織図(嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦])

